



はらだ 原田てつよ議員

障害者相談支援センターはどどこに

議員 井笠圏域障害者相談支援センターと自立支援協議会の13年間の活動の積み重ねと過去の質問と答弁の経緯を踏まえて現状と今後の見通しをたずねる。①相談支援センターの場所は。②委託相談の体制は。③自立支援協議会は。

市長 ①相談支援センターは地域福祉課内に移転した。②2名の相談支援員がいる。③新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら設立総会を開催したい。

議員 昨年12月の「従来の場所で相談支援を実施したい。委託事業所が2事業所になっても相談業務に支障が出ないようにする。必要な予算確保を図る。」との答弁と180度変わっている。議会での質問と答弁をどう考えているのか。



市長 他の場所も探すように指示を出している。皆さんの意見を聞きながら良い方向に進めたい。

議員 答弁と現状が変わっているのをどう考えているかをもう一度たずねる。

市長 障がい者の皆さんに寄り添う政策をとれるようやってほしい。

市民病院のオンライン面会はできないか

議員 新型コロナウイルスの院内感染防止対策の一環で、市民病院でも面会制限を行った。入院患者にとつて面会や見舞いは大きな喜びや楽しみである。今後の事も考えるとオンライン面会という方法も考える必要があるのではないか。

病院管理局长 オンライン面会の実施に向けて検討したい。

コロナ対策について問う



ひのつ 樋之津倫子議員

議員 ①来年4月27日までに誕生する新生児にも定額給付金を支給すべき。②就学援助対象児童に休校中の給食費支給を求める。③学校再開後の学習計画は。7時間目授業や、夏休みの短縮でなく、授業内容を精選し、複数年かけた埋め合わせを求める。④各産業への影響、特に農業従事者は価格の暴落、流通路の縮小など困窮している。作物のふるさと納税返礼品登録、国の補助制度申請など援助を求める。⑤無料配布をしているスパー次亜水は、厚生労働省が手指消毒の効能を認めておらず、再考すべき。

市長 ①短期間に集中した支援策を実施する。④国の支援制度に加えて、市独自の支援策を実施予定である。⑤当初から消毒ではなく、



除菌として広報し、保健所の通知どおり適切な対応を実施している。

教育長 ②8月までの給食費減免も予定している。③夏休みの短縮や学校行事の持ち方を工夫して回復予定だが、子ども達をゆったり受け止めながら、遊びや休息の保障など柔軟な教育を行う。

種苗法改定について問う

議員 延期となった改定案は自家増殖を原則自由とする第21条を削除するもので、国際条約等にも逆行する。海外での品種登録が海外流出への最大の防御と政府も認めている。市長の認識を問う。

市長 優良品種の海外流出を規制し、農家の適正な利益を守ることがは賛意を示すが、農家の負担も想定されるので国に慎重な審議をいただきたく、動向を注視する。